



アジアの鼓動を今ここに…

# アジア フェスティバル

1993 9/13<sup>月</sup>～30<sup>木</sup>  
岐阜市文化センター

■主催=岐阜市 ■共催=国際交流基金 ■企画構成=岐阜市文化センター  
■後援=外務省・岐阜県教育委員会・財岐阜県国際交流センター・岐阜県国際交流団体協議会  
■問い合わせ=岐阜市文化センター ☎0582-62-6200 岐阜市民会館 ☎0582-62-8111

タイトル	日時	会場	内容
アジアの弦の響き 一般¥2,500 高校生以下¥1,500	9月13日(月) 18:30～20:30	小劇場	プレームダース・ヘーゴダ(インド)……………シタール ショヒラティ・トルソン(ウイグル自治区)……………レワーブ 他 佐藤美美子(日本)……………箏
アジアからの映画秀作6選 一日券¥700 (各日2回上映)	9月16日(木) 14:00～17:19 18:00～21:19	小劇場	「スワミー」……………インド 「青春のキブツ」……………イスラエル
	9月27日(月) 14:00～17:33 18:00～21:33	小劇場	「馬鹿宣言」……………韓国 「泥の中を泳げ」……………フィリピン
	9月30日(木) 14:00～17:13 18:00～21:13	小劇場	「心の香り」……………中国 「双旗鎮刀客」……………中国
インドの伝統影絵芝居 一般¥2,500 高校生以下¥1,000	9月28日(火) 18:30～20:00	催し広場	「トール・パーヴァ・クートウ」 「ラーマーヤナ」より
アセアン漫画家展 (無料)	9月23日(木)～ 9月28日(火) 開館中	文化センター 1階ロビー	アセアン諸国の漫画家が「変わりゆくアジア」を描写した100 点の作品展

アジアの音の響宴  
伝統から現代まで……

# アジアの弦の響き

9月13日(月)午後6時30分 岐阜市文化センター小劇場

一般=2,500円 高校生以下=1,500円

- ◆ プレームダース・ヘーゴダ (インド) …………… シタール
- ◆ ショヒラティ・トルソン (ウイグル自治区) …………… レワーブ他
- ◆ 佐藤芙美子 …………… 箏



# 中国映画2本の傑作

9月30日(木) 午後2時 午後6時 岐阜市文化センター小劇場

一日券=700円

## 「心の香り」1992年 中国 監督=孫 周

北方の都会育ちで少年クラブ京劇班に所属する京京が、両親の別居で南の町に住む母方の祖父に預けられることになる。

初めて会う祖父は元京劇の俳優、今は引退して年金生活をしている。祖父は京京を預かったのが不満のようで、ずっと不機嫌で口やかましい。しかし、恋人の元女優の蓮さんには、台湾に徴兵されたまま音信がない夫がいて、40年ぶりに帰国するという便りが京京がこの町に着いた日に届いた…。

そう き ちん どうきやく

## 「双旗鎮刀客」1990年 中国 監督=何 平

両方のブーツに剣を差した少年剣士ハイコーは許婚者と師となるその父を訪ねて馬で双旗鎮へ向かっていった。双旗鎮は城壁に囲まれた砂漠の村で、赤と黄色の二つ(双)の旗を高く掲げているところからその名が付いた。双旗鎮で許婚者ハオメイとその父に出会ったハイコーは、イータオンシェンと決闘することになった…。

現代中国の少年の愛……

◆心の香り



中国映画初の西部劇!!



◆双旗鎮刀客

光は宇宙  
影は魂

トール・パーヴァ・クートウ  
TOLPAVA KOOTHU

幻の影絵芝居 南インドから今



パーカッションが  
闇を裂き  
神の明りがとるとき  
現れる  
もうひとつの真実

出演/ナタナカイラリ

監修/小西正捷  
協力/河野亮仙

市民の劇場<144>

アジア

■主催=岐阜市 ■共催・助成=国際交流基金 ■企画構成=岐阜市文化センター  
■後援=外務省・インド大使館・インド政府観光局・日印協会・岐阜県教育委員会・(財)岐阜県国際  
交流センター・岐阜県国際交流団体協議会・日本ウニマ(国際人形劇連盟日本センター)

フェスティバル

1993年9月28日(火) PM6:30

岐阜市文化センター 催し広場

一般=¥2,500  
高校生以下=¥1,000 (全自由席)

■お問い合わせ=岐阜市文化センター ☎0582-62-6200  
岐阜市民会館 ☎0582-62-8111



# 光は宇宙 影は魂

トール・パーヴァ・クートゥ  
TOLPAVA KOOTHU

幻の影絵芝居 南インドから今



## 二十一夜を徹する「ラーマーヤナ」の世界

トール・パーヴァ・クートゥは西南インドのケーララ州に古くから伝わる影絵芝居です。その伝承の中心はケーララ州の中でも北部の農村部パールガート地区。上演は一帯の60カ所におよぶヒन्दゥー教寺院で、毎年12月から翌年の5月にかけて祭礼の折におこなわれます。上演の目的は寺院の祭神であるカーリー女神（またはパーガヴァティ女神）に大叙事詩「ラーマーヤナ」の世界を再現してみせることにあるといわれ、ラーマ王子の壮大な冒険物語が、通常21日間をかけて毎夜を徹し展開されることとなります。



## 影絵と語りのダイナミズム

毎夜の上演はまずシャーマンを先頭に、演者たちが神殿から火を運ぶ儀式から始まります。やがて舞台上に火がともると、そこに現れるのは主人公である神々の姿。鹿の皮をなめして作られた人形たちの影は、手の動きをもつだけの極度にシンボリックな存在です。そして芝居の進行を司るのはブラヴァル（学者）と呼ばれる語り手。幼ない頃からの厳しい修練によって、鍛えぬかれた朗々としたその語りは一夜やむところなく続きます。これにチェンダをはじめとする打楽器とシンバルが加わって、いやがうえにも物語は高揚し、見る人を異空間へと導いていきます。



## 待望の日本公演

今回来日するナタナカイラリは、長老クリシュナンクッティ・ブラヴァルとその家族を中心とするグループ。現在わずか20人あまりとなった伝承者たちの中核をなす存在です。同ブラヴァルは長大な台本の現代語訳などの業績で数々の賞を受け、また1979年から今日までに世界各地で公演をおこない、その格調高い芸術性によって各国の賞賛を得ました。日本でもかねてから、アジア帯に広がる影絵文化圏中きわめて古い形式を現代に伝えるものとして、その存在が注目されてきました。今回は待望の初来日となります。

9月23日 福岡市・福岡市博物館／9月24日 福岡市・市役所前アジアステージ／9月26日 神戸市・ジーベックホール／9月28日 岐阜市・岐阜市文化センター／10月2日 大阪市・大阪国際交流センター／10月3日 東京・芝増上寺／10月5日 伊丹市・伊丹アイフォニックホール